

令和3年度 第2回小平市総合教育会議 議事録

1 日 時 令和3年12月13日（月）午前10時から11時17分

2 場 所 小平市役所 6階大会議室

3 出席者

(構成員) 小平市長	小林 洋子
教育委員会	
教育長	古川 正之
教育長職務代理者	三町 章
委員	山口 有紀子
委員	丸山 憲子
委員	青木 雅代

(構成員以外の出席者)

有川企画政策部長、篠宮文化スポーツ担当部長兼健康・保険担当部長、川上教育部長、国富教育指導担当部長、安部地域学習担当部長、相澤政策課長、三井スポーツ振興担当課長、市川教育総務課長、事務局職員2名

(傍聴者) 3名

4 会議内容

午前10時 開会

(開会宣言)

○小林市長

おはようございます。市長の小林でございます。

定刻になりましたので、ただいまより、令和3年度 第2回小平市総合教育会議を開催いたします。進行につきましては、会議の主催者である私が務めさせていただきます。

教育長、及び教育委員の皆様には、日頃より小平市の教育行政の推進にあたりまして、ご尽力をいただき、改めて感謝を申し上げます。ありがとうございます。

さて、この度、10月1日付けで三町委員を教育委員として再任いたしました。三町委員におかれましては、引き続き、教育長職務代理者になられております。それでは、三町教育長職務代理者に一言ご挨拶をいただきたいと思います。よろしく願いいたします。

○三町教育長職務代理者

10月1日に辞令をいただきました。3期目になります。その責任の重さを感じながら務めさせていただきます。どうぞよろしく願いいたします。

○小林市長

本年度の第1回の総合教育会議では、小平市の教育に関する大綱について協議・意見交換を行いました。教育委員の皆様より、様々な観点からのご意見をお聴きするとともに、現在の小平市の教育に関する大綱につきましては、引き続き維持することを確認させていただきました。

(協議事項)

○小林市長

本日、第2回のテーマは、子どもの健やかな体の育成についてでございます。

新型コロナウイルス感染症の影響が長期化する中、昨年度においては、多くの学校で運動会が中止になるとともに、休み時間や放課後における外遊びの機会が減ってしまうなど、子どもの運動の機会が減少し、体力面、健康面への影響を懸念する声を耳にいたします。

また、ゲームの影響や、外に出るのが怖いといった心の面に対する影響も心配しているところでございます。

本年度に入り、学校現場における様々な工夫のもと、運動会の開催や外遊びの機会が増えるなど、これまでの日常を取り戻しつつあるものと思いますが、ウィズコロナ、ポストコロナ時代において、どのように子どもの健やかな体の育成を図っていくかについて、意見交換をできればと思っております。

それでは、まず始めに市長部局と教育委員会それぞれの取組や、現状と課題などについて、説明をお願いします。

○篠宮部長

それでは、市長部局の文化スポーツ課における子どもの健やかな育成に向けた取組についてご説明いたします。資料1をご覧ください。

平成29年度に策定いたしました第二次小平市のスポーツ振興の基本方針では子どもの健やかな体の育成への取組といたしまして、基本方針1、誰もがスポーツに親しめる機会の充実における3つの取組事項に沿って取組を実施しております。また、近年の少子高齢化やライフスタイルの変化により市民のスポーツとの関わり方が多様化しているため、市民や民間事業者、大学等との連携・協働を図りつつ市長部局における広範囲な施策との連携を強め、市民生活の質の向上や、地域社会の活性化を図っております。そうした子どもの体力向上や運動習慣の定着に向けた取組につきまして、新型コロナウイルス感染症の流行前における実施状況と、流行後のウィズコロナの実施状況についてご説明いたします。

資料の1ページ下段1、令和元年度事業実績をご覧ください。

新型コロナウイルス感染症流行前の令和元年度におきましては、全部で5つの事業を実施しました。

1つ目は、スポーツをして、見て、運動が楽しくなるスポーツ教室です。スポーツをするだけにとどまらず、車いすバスケットボールの観戦も親子ペアで実施をしました。講師から動きの狙いなどの説明があったため、家庭に帰っても楽しめる事業となりました。

2つ目は、元プロ野球選手による少年野球教室です。子どもの技術指導だけではなく、参加コーチの指導技術の向上にもつながりました。

3つ目は、トップアスリートによるランニング教室です。正しい走り方を習得することで、徒競走などのタイム向上に寄与いたしました。

4つ目は、少年少女マラソン大会です。競争による向上心を育むだけでなく、自己目標の達成を目的とし、毎年多くの参加を頂いております。

5つ目は、FC東京サッカークリニックです。少年野球と同様に、子どもとコーチのスキルアップにつながりました。

続きまして令和2年度でございます。

2の1、令和2年度新型コロナウイルス感染症の影響により中止した事業では、3つの事業が中止となりましたが、9月以降から規模の縮小や感染症対策に十分に配慮した上で2つの事業を実施することができました。

2の2、令和2年度事業実績をご覧ください。1つ目は、トップアスリートによるランニング教室です。対象を小学校3から6年生にし、規模を縮小することで開催することができました。

2つ目は、小学校と連携したアルティメット体験教室です。フライングディスクを使った教室で、チームプレイの大切さを学ぶだけではなく、ニュースポーツへの関心も高めることができました。

最後にウィズコロナでの取組となった令和3年度の実施状況においては、現在のところ中止した事業はございません。実施日の延期等の影響はありましたが、基本的な感染対策を行った上で、事業を確実に実施することができております。

3の2、令和3年度実施事業をご覧ください。1つ目は、小学校と連携したボッチャ体験教室です。パラスポーツの教室であったことから、障がい者スポーツの理解促進や、チームプレイの大切さを学ぶことができました。

2つ目は、キッズダンス教室です。初心者向けに運動への苦手意識の払しょくをするとともに、ダンスを楽しむことができました。また、トップアスリートによるランニング教室、少年少女マラソン大会を実施しました。

3の3、令和3年度実施予定事業は、FC東京サッカークリニックと、少年野球教室を予定しています。

以上が文化スポーツ課で行っている子どもの健やかな育成に向けた取組の状況となります。

令和3年度は、昨年度中止となった少年少女マラソン大会が実施できるなど、基本的な感染防止策の徹底を呼び掛けながら、可能な限り事業の実施をしております。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響により運動機能は確実に減少しており、健康面・体力面での低下は子どもだけではなく、大人でも心配な面があります。

資料5ページの参考をご覧ください。スポーツ庁が発表した令和2年度体力・運動能力調査の結果によりますと、成人の体力テストの合計点は、前年度と比較するとほとんどの年齢の男女でわずかに低くなっており、大人にとっても運動習慣の定着は大きな課題となってきています。

生涯を通した運動習慣の定着や、こたいら健康増進プランにおける健康寿命の延伸を考えるうえで、小・中学生の頃から運動習慣を身につけていくことは非常に重要です。

今後も教育委員会と連携した取組を実施し、市民の運動習慣の定着やスポーツ推進、健康寿命の延伸に取り組んでまいります。

○川上教育部長

続きまして、子どもの健やかな体の育成に関し、教育委員会における取組などについてご説明いたします。

資料2、A3の資料をご覧ください。初めに、小平市教育振興基本計画における位置付けでございます。今回の議題でございます子どもの健やかな体の育成については、現行の教育振興基本計画が目指す人間像の実現に向けて定めている15の基本的施策の1つとしています。

計画に基づき、教育委員会と学校は、連携・協力しつつ、運動嫌いゼロの取組としての楽しみながら運動プログラムの実践や、こだいら一斉体力テスト週間の実施など、様々な事業・取組を実施してまいりました。

計画の中間年での見直しに当たり、平成28年度に行ったアンケート調査の結果、計画策定時に比べ、体力の向上は見られるものの、学年が進むにつれての運動離れの傾向はあまり改善されていないことが分かりました。

そうした状況を踏まえ、計画改訂にあたっては、子どもの頃に身につけた基本的な生活習慣は、あらゆる行為の基盤であり、運動習慣の定着を含めた基本的な生活習慣の確立が課題であるとしております。改訂版の計画において、この課題に対する主な施策を掲げておりますが、身体的活動に関わるものとしては、資料右側にある①から③の3つの取組でございます。

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止を最優先とし、身体接触を伴う教育活動は特に制限せざるを得なかったことから、②のこだいら一斉体力テスト週間は中止とし、各校が任意で取り組むことといたしました。

教育委員会による取組とは別に、学校が1校1取組として令和2年度に取り組んだ内容は、資料裏面の一覧のとおりでございます。例年通りの取組を継続することは困難であるため、三密を回避できる種目の選択や、学年・学級別といった小集団での実施、家庭で取り組めるようオンラインを活用した情報配信などに取り組んだ学校もありました。

様々な工夫により、子どもたちが身体を動かす機会を設け、また、自主的に取り組むよう促してはりましたが、長期の臨時休業や教育活動の制限といった活動自粛の影響からか、令和3年度の体力テストの結果から、全身持久力や敏捷性が低下していることが分かりました。この点について、国富教育指導担当部長からご説明いたします。

○国富教育指導担当部長

小平市立学校における体力・運動能力調査結果から明らかになった課題についてご説明いたします。配付資料別紙、平成29、30、31、令和3年度の体力・運動能力調査結果をご覧ください。

この結果につきましては、9種目の体力・運動能力について調査をしております。この結果によれば男女ともに上体起こし、反復横跳び、持久走、シャトルランについて、令和3年度は過去5年間で最も低く、それぞれ1ポイント以上過去4回の結果を下回っています。この表の中では網掛けをしております。

上体起こしは筋力、筋持久力、反復横跳びは敏捷性、持久走・シャトルランは全身持久力による運動ですので、筋力、敏捷性、全身持久力が過去4回と比べて明らかに低下していることが伺えます。低下が顕著な3つの運動の運動特性を大きな枠組みで捉えると、運動を持続する能力、すなわち粘り強さや素早さでございます。

令和3年度調査結果において、これらの能力が低下した要因を特定することはできませんが、新型コロナウイルス感染症予防のために、日常的な運動の機会が減じたことや、平日の運動習慣、土日などの休みの日の運動習慣、1週間を通した運動習慣といった変化が関係していると考えられます。心身の健

康は私たちが生きていくうえでの基盤であると言われていています。心の健康のためにも朝の散歩や運動が大切であると述べる識者もおります。

体力・運動能力調査の結果は、心身の健康における要素の1つにすぎませんが、生涯にわたって充実した人生のための基礎を育むために、感染症予防のために制限や変更した1校1取組や外遊びの奨励等に改めて積極的に取り組むとともに、運動や身体活動の良さを様々な機会を捉えて子どもや地域、保護者に伝えることで、学校教育のみならず、日常生活における健康増進の気運醸成が課題と捉えております。

○川上教育部長

A3の参考資料をご覧ください。児童・生徒の発育に関する資料をお示ししております。

令和元年度と令和2年度を比較いたしますと、小平市に限らず、全国的に身長・体重共に増加しています。これは、臨時休業により測定時期が例年より遅くなった影響も否めませんが、身長・体重から算出される児童・生徒の肥満度の程度を表すローレル指数を算出してみますと、男子全般で数値の伸びが確認でき、小平市においては8歳から11歳の男子児童で比較的大きな数値の上昇がみられます。表のうち、黄色でお示した箇所がこれに該当いたします。判定としては「ふつう」の区分であり、健康上の問題を示す値ではありませんが、令和元年度と比較して、体を動かす機会が減ったことが影響しているのではないかと捉えております。

今後の課題として、新型コロナウイルス感染症の影響により低下した体力の回復及び更なる向上が必要となります。現時点においては、新型コロナウイルス感染症の流行状況は落ち着いてはおりますが、予断を許さない状況が続いており、今後も、新しい生活様式に則った教育活動の展開が求められます。

義務教育9年間での取組は、生涯にわたっての健康維持・増進につながる基礎づくりでもあり、現在、策定を進める（仮称）第二次小平市教育振興基本計画においても、生涯にわたってたくましく生きる力の育成を図ることは、極めて重要となってくるものと考えております。

○小林市長

それでは、順次ご意見を伺いたいと思います。三町教育長職務代理者よりお願いいたします。

○三町教育長職務代理者

私は医学や保健体育の専門ではありませんので、学校教育に関わる教育研究や、学校教育に関わる経験からの感想になります。

学校教育の取組に関しての今の説明や資料を見て、自分が感じている課題は3つ、そしてそれを解決する方法として1つお話しいたします。

まず感じたこととして、新型コロナウイルス感染症の影響はかなりあるというのは明らかかと思えます。ただ、実施時期の違いや、普通の活動であれば事前練習により数値はもっと良くなっているのではないかということもあり、統計資料そのものの数値の信頼性はどうかと感じました。

しかし、新型コロナウイルス感染症の影響はやはり大きかったと思います。授業時間や体育活動の時間の制限、体育的な行事等についても、練習時間も含めてかなり制限がありました。そういう意味で学校行事に関しては大きな影響があったと思います。統計を見ると体力だけでなく、心の成長にも大きな影響が出ていると思います。

令和2年度の国の問題行動等の調査の中でも、小学校から高等学校までの子どもの自殺が、令和元年度は310人台だったものが令和2年度には100名ほど増え、1.3倍になっている。不登校の子どもについても、新型コロナウイルス感染症関連を除いても小学校で100人に1人、中学校では24人に1人が不登校です。これも過去数年において最高の数値で、そういう意味でもかなり影響があると感じました。

短期的なところでは、学校教育が正常化していけば、体力などについては令和元年度並みに回復すると思っており、さほど心配はしていません。しかし、長期的に学校が取り組んできたものが、体力の向上につながっているのかが課題です。

国はスポーツ基本計画において、昭和64年頃の体力に戻すという数値目標を掲げています。小平市にデータがあるか分かりませんが、小平の子どもたちの状況をしっかり調べたうえで、これまでの学校教育の取組を評価して、どこを強化していくのかを考えていくことが課題だと感じています。そして、方向性を出していくことが大事であるというのが学校教育に関する感想です。

次に、図書館や公民館を含めた教育委員会としての関わり、市長部局の関わりを見させていただくと、基本的に国や東京都の計画を踏まえて、基礎自治体としての取組をしっかりとしているなど思いました。

子どものスポーツ活動、体力向上に関しては、学校が担っている部分を別にすると、子ども自身が身体を動かすのが好きであるとか、特定のスポーツに興味関心があるなど、ある程度限られた子どもが対象で、参加人数も決して多くはありません。生涯にわたっての健康維持や、スポーツに親しんで体力向上を図るということに関しては、基礎自治体としては、学校教育で基礎・基本を身につけることがメインとなっていて、それを補完し、発展させ、支えるのが市長部局の取組や図書館、公民館での意識啓発であると感じました。その枠組でのこれまでの取組を超えるものと考えていかなければならないというのが課題だと思っています。

中長期的には、市長部局の事業があり、既存のスポーツクラブやジムもあります。個人的な参加ではなく、学校教育と地域スポーツ団体をどうつなげていくのか、子どもの潜在的ニーズにこたえられるような関係をどう作っていくのか。大変難しいことではありますが、これからの大きな課題であると思っています。

もう1つ共通で感じているのは、十数年前からオリンピック・パラリンピック誘致のための気運醸成に向けたスポーツ教室やエリート養成に取り組まれてきました。また、誘致が決定した後はオリンピック・パラリンピックへの理解や、教育への関心、国際理解、障がい者理解などの活動が多く行われてきました。せっかくここまで高めてきた気運をオリンピック・パラリンピック終了後もどうつなげていくのか、市としての考えや方向性を示していかなければならないと考えています。それが私の感じた3つ目の課題です。

課題解決の1つとしてお話しした、学校教育と地域をどうつなげていくかということについて、まず機会の提供を考えると、学校はこれまでのように体力向上や自分の身体のことを考えさせる教育をしっかり行い、楽しさを教えることが重要です。そして子どもたちの積極的な参加を前提に考えながら、小学校ではクラブ活動はほとんどないかもしれませんが、放課後子ども教室の活動や中学校の部活動への支援策を行う。中学校では働き方改革などもあり、部活動がかなり制限されてきていますし、放課後や休日の活動がしにくい状況がこれからも進んでいくのではと感じています。

一方で、部活動や地域のスポーツクラブに入っておらず、どこにも関わっていない子どももいます。しかし、条件や環境が整っていればやりたいという子どももいるはずで、そのような子どもに対して

支援の手を広げていかなければいけないと考えています。

そのうえで地域でというと、スポーツクラブとの連携もですが、小平市が進めていこうとしているコミュニティ・スクール、そして地域の核となるような学校を主体とした活動である地域学校協働本部が実施主体として、ニーズに沿った形のスポーツが楽しめる環境を提供するということを考えていかなければならないと思います。もちろん、運営経費や指導者の確保などといった課題がありますが、それを言い続けるといつまでも先に進めません。大きな方向として考えていかなければと考えております。これが機会の提供です。

もう1つ、新たな場の提供として感じているのは、オリンピックで14歳の女の子が金メダルを取ったスケートボードは非常に人気があります。この間は12歳の子が優勝するなど、新たなニーズがあるのではと思っています。そのようなニーズを把握したうえで、市としての場の提供を考える必要があります。例えばスケートボードの練習場の環境整備など、これからの子どもたちのことを考えた新たな場の環境整備を考えていく必要があるのではないかと思います。現状の課題と方向性についてお話しをさせていただきました。

○小林市長

課題として、市長部局が行っている事業については、スポーツに興味がある子が関わることが多いのではないかというお話でした。イベントに申し込む子は、スポーツに興味がある子になってしまっています。目指すべき、すべての子にスポーツを好きになってもらう、身体を動かすことを好きになってもらう取組としては、もう一步踏み込んだところが必要なのではないかと思います。すべての子どもたちというと、やはり学校現場が非常に重要になってくると思っているので、その両輪の協力が大切であると思っています。

また、新たな機会、場の提供というお話をいただきました。学校だけに取り組んでもらうわけにはいきませんので、地域がどのように関わっていけるのか、商業としてスポーツをやっている方にも関わっていただき、地域も保護者も子どもを中心として、どうやったら新しい環境を提供できるのかというのは課題の1つと思っています。

中学校の部活動についても触れられておりましたが、少しずつ外部指導員などは配置されているものと思っていますが、先生の中でも部活の顧問をやりたくて中学校の先生になられたという熱心な方もいらっしゃいます。一方ですべての部活動に適切な顧問がいるかということもあると思います。そこは引き続き地域の力を借りるところと、先生に担っていただくところを分担しながら行っていく必要があると思います。

○古川教育長

今、市長が話されていたように機会と場をどう提供していくのかというのが市の検討事項だと思いました。部活に関しては外部指導員を充実させていきたいと思っています。

○小林市長

続きまして、山口委員よろしく申し上げます。

○山口委員

今回の会議の議題設定の背景や主旨に、新型コロナウイルス感染症により、子ども達の運動の機会が減り、体力面や健康面への影響が懸念されるという説明がありました。確かに直近の新型コロナウイルス感染症はもちろん、東京2020大会に連動する各種運動プログラム終了の時期が重なったこともあり、それが子ども達の運動量の低下に直接影響したのは事実だと思います。しかし冒頭で市長からもお話があったように、要因はそれだけではなく、もっと大きな社会や時代の変化の中で起きているものもあると思っています。

私は三町委員とは違い保護者の立場で、放課後の子ども達の過ごし方からこの問題を考えてみたいと思います。

最近下校時の子ども達の様子を見てみると、「今日は4時に集合ね」などという会話をよく耳にします。帰宅後彼らが集合するのはオンラインのゲームやコミュニケーションツールの中です。そこで気の合った仲間同士が合流して、リアルタイムでの会話が始まります。ある子たちはゲームをし、別の子たちは自分たちの好きなものを見せ合ったりしています。グループ遊びの途中で、強い子が弱い子の面倒をみたり、みんなが楽しく遊ぶための新しいルールを子どもたちが作り出したりしています。時には「これから妹に代わるね」とか、「お兄ちゃんを呼んでくるからちょっと教えてもらおう」などと、異年齢の兄弟が参加してくることもあります。

遊びがしばらく続くと、「これから夕飯だから抜けるね」とか、「長くなってきたから終わりにしよう」などと言って、各自がそれぞれ解散していきます。その様子はまるで数十年前の空き地遊びや公園遊びのようです。子ども達の遊び場が外にある公園からオンライン上の空間に移ってきているというのは、保護者としても目に見えています。

一方で外遊びの環境もここ数年でだいぶ変化してきました。市内の人口増加や宅地化とともに、大きな空き地や家の前で遊べるような公道が減りました。公園に向かうための道路は狭く、交通量も増えています。公園遊びもボールだめ、大声だめ、穴掘りだめ、木登りだめ、など様々な制約が増えてきています。小学校低学年の子どもたちにとっては、交通量の多い道路を通過して公園に行くのは非常に危険を伴います。また、事件にはなっていませんが、盗撮の疑いや、ちょっとした声掛けなどの不審者の情報は、子どもたちからも非常によく聞きます。すべり台などの公園遊具で遊ぶ年齢が過ぎた中学生などは、サッカーやキャッチボールが禁止されている公園では手持無沙汰だと聞いています。

加えて新型コロナウイルス感染症が流行しだしてからは、緊急事態宣言中に子どもを外で遊ばせるのは非常識だとか、テレワーク中に子どもの声が耳障りだ、などといった、大人の声も少なからず聞かれ、子を持つ親としては子ども達を気軽に安心して外遊びに送り出すことがしにくい状況にありました。

下校後に子ども達が集まっているオンライン上の遊び場は、子ども、大人双方にとって確かに手軽で魅力的です。ただ、子どもも大人もオンラインがあるから外遊びはもういらないと考えているわけでは決してなく、むしろオンライン遊びがある今だからこそ、外で思い切り身体を動かして遊びたい、遊ばせたいと考えているのではないのでしょうか。一方、時代に伴う住環境、社会環境の変化の結果として、放課後存分に身体を動かす外遊びは非常に難しくなっているのが現実だと思います。その結果、子どもも大人も外遊びよりも手軽で安全なオンラインゲームで時間を潰している、潰させているというのが実状ではないかと感じています。

数十年前の子どもたちと同じように、放課後の子ども達が思い切り身体を動かす、外遊びの場所をとると、大きな公園や安全な道路の整備が必要になり、これはなかなか現実的ではないと思います。ま

た、放課後の子ども達の運動不足に教育委員会や学校の取組だけで対応していくのは限界があるとも思っています。今後は市内に今ある資源を生かして、子ども達の運動習慣の定着と意欲向上ができる仕組みを考えていくことが重要ではないかと私は考えています。

例えば他の自治体では申込カードなどで保護者からの申請があれば、放課後帰宅せずにそのまま校庭や体育館で遊ぶことができる取組があります。小平市でも放課後子ども教室として地域の方々と一緒に交流する場があります。しかし、子ども達には子ども達だけの自由な遊びというのも必要です。放課後帰宅することなく、子ども達が広く安全な校庭などで思い切り自由遊びができるようになる取組は、小平市でもすぐに取り入れることができるのではないのでしょうか。

また、中学生の部活動が定期的に学区内の小学校に出向いて、小学生を交えて練習する取組を行っているところもあるそうです。小学生にとっては身体の大きな中学生とダイナミックな活動を共にすることで、中学入学後のイメージや、運動意欲を育てることもつながるものだと思います。小平市内には大学も多くありますので、学生団体の力を借りることももしかすると可能かもしれません。このような事業の実現には学校施設のより積極的な開放や、地域の方の協力や見守りが不可欠です。こうしたことは今後教育委員会の中で積極的に取り組んでいただくことを期待しています。

また、地域内の様々なスポーツ団体に、外部に開かれた活動をより積極的に推奨することもできるのではないかと思います。初心者への指導や、短期教室、誰もが参加できるような試合や記録会を高い頻度で行い、たくさんの方が気軽に参加できるような取組を積極的に増やしていただけるとよいと思います。

また、正式にスポーツ団体に所属していない小さなグループや個人が、学校施設の開放や市内スポーツ施設を利用する隙間がないという話もよく聞かれます。長く地域内で活動されている団体とともに、新しい方や小さなグループの方にも気軽に施設を利用していただけるように、現状点検やルールの見直しも必要かと思えます。

健康や体力増進の取組は、教育委員会や学校でいくら推進しても、親である大人世代にそれらの意識がなければ、子ども達の学びが机上の空論になってしまいます。健康に過ごすための基礎体力を備えておくことは、私たち大人にこそ必要です。今回の議題はコロナ禍における子どもたちの体力・運動能力の低下という観点からでしたが、平均寿命や健康寿命が長くなっているこれからは、健康や体力増進に対する大人の意識作り、仕組み作りもさらに重要になってくるのではないかと思います。また三町委員のお話にもありました特定の団体に属さない新しい利用者の取り込みやスポーツ人口の増加を目指す際には、施設の開放や活動に伴う利用者モラルの維持、向上も課題になると思います。

こういった点も教育委員会や学校からの呼びかけだけでは限界があると思います。子ども達が気軽に安心して身体を動かす活動ができる場所を掘り出していくこと。また、それを支えて一緒に楽しんでいくことができる大人を増やしていくこと。市民一人ひとりが心身ともに充実してはつらつとした毎日を送っていけるように、今後も教育委員会と市長部局がより強力で連携して、多方面から立体的かつ積極的にこの課題に取り組んでいくことを期待しています。

○小林市長

具体的な提案もいくつかいただきましてありがとうございます。特に、帰らなくても学校の校庭で直接遊べることについて、私の子どものエピソードを思い出しました。低学年の頃に、子ども同士で約束をして、一度家に帰り、校庭で集合と言っていたのですが、会えずに帰ってくるがありました。せつ

かく外遊びをしようと思えば、会えなくてお互いうろろして帰ってきてしまったというものです。もし、そのまま帰らないで直接校庭で遊べる機会があれば、親としても安心ですし、外遊びの場の提供としてとてもよいと思いました。もちろん課題もあると思いますが、その点を後ほど教えていただければと思います。

また、中学校の部活動が小学校に出向くとか、逆に中学校に招く場合もあるかと思いますが、そのような取組を実際に行っているところも少しはあるのかと思っておりますが、積極的に取り組んでいくのも課題を整理した上では有効かと思っております。

親目線では、オンライン上というのは交通事故にあうこともなく、時間になったら切ればよいというのは本当に便利だとは思っています。コロナ禍で友達と交わる機会を与えてくれたというのはオンラインの力もあると思われ、デメリットばかりではないと思っております。ただデータ上で、実際に体力や持久力が落ちているというのを目の当たりにすると、何らかの改善策を講じていかなければならないと思っております。

○古川教育長

先ほどの放課後遊びについては、小平市は緊急事態宣言中でも午後3時30分からは校庭開放は続けており、それはできていたと思っております。ただ、低学年にとっては放課後でも、高学年は体育の授業を校庭で行っているため、検討の必要があると思っております。子どもたちが約束して、どここの公園に集まって一緒にゲームをしようというのさえもなくなっているのが、コロナの影響は大きいと感じております。

○小林市長

昔は公園の中でゲームをしている姿も見かけました。それがバーチャルの空間になったというのは大きな変化だと思っております。

続きまして、丸山委員をお願いします。

○丸山委員

私は体育やスポーツに関して専門家ではないので、非常に感覚的なお話をさせていただきますが、教育委員として市内の学校を訪れた際、授業で先生が丁寧にご指導され、それぞれの学校で体力向上のための身体を動かす取組をしているのを拝見し、本当によくやっているなという印象を受けました。新型コロナウイルス感染症の対策をして、しっかり工夫して身体を動かす取組をしているので、コロナ禍もそうですが、いろいろなデータで体力が落ちているとありますが、これも三町委員がおっしゃるように徐々に回復してくるのではないかと私は思っております。

先ほど山口委員がおっしゃったように、SNSやスマホを使ったゲームなど様々な現代的背景があり、子どもの体力の低下というのは、今後新型コロナウイルス感染症とは別にして考えていかなければならないと思っております。これは学校だけではなく、家庭や地域で考えなければならぬ問題だと思っております。昔は遊びながら体力をいつの間にかつけているというのが普通でした。筋力、持久力、敏捷性もそうですが、遊びながら培ってきたと思っております。例えば缶蹴りや鬼ごっこ、だるまさんがころんだなどで、すぐ止まる動きもそうですし、遊具の雲梯やジャングルジムなどでぶらさがったり、よじのぼったりするような動きも筋力をつける重要なアイテムだったと思っております。

運動と意識しなくても、子どもは遊びを通して体力をつけていました。学校に登校するのも、どこかに出かけようと歩いて行ったり、自転車に乗って行ったり、それは今でも変わらないと思いますが、それによっても日常的に体力をつけていたと思います。

小平は非常に平坦で坂がなく、災害にも強く生活をしやすいと思いながらも、体力を向上するという意味では、坂を上る、下りるといのは基礎体力としては重要で、小平は幸か不幸かそのような環境にはない状況です。そういったことから意識的に身体を動かす、使うというのは必要かと思えます。これは子どもだけではなく、高齢者も大人もそうです。

昔遊びを復活させようというわけではありませんが、楽しみながら体力をつけるというのが重要なことで、これは市の教育振興基本計画にも盛り込まれていますが、改めて学校を始め地域や家庭で意識することが大事だと思っています。もちろん子どもたちに勝手に遊んでいいよといっても、なかなか自由に遊べないというのが現状で、そのような意味では市として、周りの大人がいろいろな機会を与えるべきだと思っています。

かつて九小で、スポーツ推進委員と青少対が協力して、ニュースポーツとパン食い競争で身体を動かすイベントがありました。とても盛り上がり、子どもたちもパン食い競争をしたことがない子が多かったので、よい機会だったと思います。

青少対や放課後子ども教室など、地域に根付いたものだけではなく、市内のスポーツ団体や市のスポーツ推進委員、企業、大学、FC東京などのプロのスポーツチームなどと連携した取組がよいのではないかと思います。短期のイベントだけでなく、長期的なスポーツ教室を継続してやっていくことがよいと思います。これは子どもだけでなく、老若男女が参加できたらよいですし、市のスポーツ振興の基本方針とも合致することだと思います。先ほど青少対や地域と言いましたが、現在積極的に進めているコミュニティ・スクールの意義とも合致していると思います。

三町委員も機会の話をされていましたが、子ども達に、身体を動かす機会を与えることは重要で、それだけではなくスケートボードやクライミングなどの新しいスポーツができる機会や場所の提供をすることは行政として必要かと思えます。また、市内に身体を動かすような教室はありますが、口コミでしか広がっていきませんので、そういった情報提供を行っていくことも大切だと思います。

最後になりますが、先ほどジャングルジムや雲梯の話もしましたが、学校や公園の遊具の存在も非常に大きいと思っています。丸太やロープ、ネットを使ったフィールドアスレチックと言われている物は尚更有効だと思っています。子どもも大人も綱を使ってのぼる、丸太を歩くという機会はなかなかありません。遊具を使っていつの間にか運動能力を向上させていると思いますし、体力をつけるだけでなく、バランス感覚もそのような遊具で身につけられると思います。

また最近では、障がい者も一緒に遊べるインクルーシブ遊具や、大人が基礎体力をつけられる健康遊具というものもいろいろな公園で見ることができます。遊具で子どもだけでなく、大人も一緒に基礎的な体力をつけるというのは、行政が積極的に取り組んでいくことが大切だと思います。管理については大変な面もありますので、よく考慮して設置する必要があるとは思っています。

○小林市長

昔テレビで、徒競走で早く走るには、坂道の下りを使って走り、そのスピードを身体に覚えこませると、実際に走るときも早く走ることができるのを見たのですが、小平は坂道がないなと思い自分の子には試せませんでした。坂がないのは日々の生活には非常に便利ですが、ただ学校に行くだけでも

坂道を上る、階段を上るという子に比べると、小平の子たちは意識して身体を動かす必要があるのかなと思っています。

また、公園についても具体的な提案をありがとうございました。公園を作るときは大きい子に合わせるのか、小さい子に合わせるのかというのが難しく、大型遊具は小さい子向けにと考えている部分はあると思います。あまり年齢にとらわれないものをまた考えていかなければいけないと思います。

○古川教育長

先週、教育委員会で学校訪問をさせていただきました。その時に鉄棒で遊んでいる子ども達があり、冬場になると手が冷たくて嫌がる子もいますが、子どもらしい姿を見ることができました。

丸山委員が話されたコミュニティ・スクールについて、地域と共に学校を運営していこうということで、体力向上にも非常に協力していただいております。先ほどの放課後子ども教室など、小平市は非常に進んでおり、感謝しております。

○小林市長

地域の力を借りながらということかと感じております。

それでは続きまして、青木委員よろしく願いいたします。

○青木委員

3名の教育委員の後ですので、重なることも多いかと思いますがよろしく願いいたします。

教育委員としていろいろな学校や施設を見させていただいた中から、いくつかお話ししたいと思います。今回の資料からもわかるように、コロナ禍での子どもたちの体力の低下というのは明らかだとは思いますが、しかし、子ども達の遊ぶ場の減少はコロナ禍だからというだけではなく、社会の中で近年の傾向としてあったものが、より顕著になってきたのではないかと思います。実際、放課後の時間は個々の習い事の時間に費やされたり、友達と思いきりボールを投げたり蹴ったりする場も限られているということで、コロナ禍ということを除いても、子ども達が思い切り身体を動かす機会や場所が減ってきているのは確かです。

そのような中で誰もが体力を回復・向上していくということでは、やはり学校の存在は大きいと思います。学校の時間の中で、身体を動かす時間のより一層の確保が望まれるのではと思います。市内の学校を訪問させていただく中でも、それぞれの学校が子ども達の体力低下を課題としてあげており、その回復に取り組まれている様子はどうかがえます。接触や三密の対策を取りながらも、中休みや昼休み、また全校集会などの時間を有効に使って、子どもたちが身体を動かす機会を作り出していくことが今後も必要かと思えます。朝の登校後に読書やドリルの時間を設けていることもありますが、それと同様に運動する機会を意図的に組み込んでいくとよいと思います。

先ほど丸山委員もおっしゃっていましたが、昔から子どもたちは単純な遊びの中で、楽しみながら身体を動かしています。用具や道具などを使わずとも、鬼ごっこや缶蹴りから派生したものや、ゴム飛びや線を引ただけでできる田んぼの田など、そうした単純な遊びの中で身体を動かし、知らないうちに体力をつけることができていると思います。学校では昔遊びということで、けん玉やコマ遊びを教えてもらえる機会があると思いますが、昔からある外遊びも積極的に取り入れていってはどうでしょうか。子どもも教えてもらえば、きっと楽しくなって自分たちからやる時間も増えると思います。

先日訪問した学校の中で、全校集会の時に先生も一緒に鬼ごっこをしているという学校がありました。低下した体力を向上させるための運動や、身体を鍛えるためのトレーニングというのではなく、運動を伴う遊びの中から自然と力をつけていくようなもので、運動があまり得意ではないと感じている子どもにも負担のない方法で、意図的に身体を動かす機会を増やしていけるとよいと思います。

資料に、授業以外での運動の頻度は学年が進むにつれて減っている状況にあるとあります。そのため、少しでも早い段階での運動習慣の定着が望まれると思います。幼児期に急速に発達する機能もあると聞きますので、市内の子育て講座や広場、健診の際などに保護者への情報提供と実践を重ね、小・中学校での指導につなげていけるとよいと思います。

また、授業以外で身体を動かす機会がない子どもにとっては、学校の体育の授業がとても大切になってきます。体育の授業の研究などを重ねていると思いますが、運動を楽しんでいると感じて進んで身体を動かす習慣を身につけられるとよいと思います。小学校では体育の専科の先生が教える場面は少ないと思いますので、全校で取り組み、市内で行っている研究実践校などの成果を共有するなどして、体育が楽しい、身体を動かすことが楽しいということを子ども達が学び、その後の生活の中で生かしていけるとよいと思います。

現在の1校1取組について、今後もこのような形で続けられるとよいと思いますが、コロナ禍ということもあり、種目も限られており、週間や旬間といった短い期間での実施が多かったように思います。市内の学校では読書量の目標を定めて取り組んでいるように、運動に関しても年間を通して目標値を定めて、日ごろから意識して取り組めるとよいと思います。また、その取組に関しては、記録する用紙やスタンプカードを作って、記録したり、スタンプをもらうことで成果を実感したり、達成感を味わったりすることができると思いますので、子ども達も楽しく継続的に取り組めるのではないかと思います。細かいことですが、このような取組をしながら運動を習慣化させられるとよいと思います。

また、大人では、生活習慣病のリスクの軽減として1日8,000歩という数値がよく挙げられています。子どもはどれくらいの歩数を歩いているのか気になります。徒歩で通学していますし、学校内でも階段を利用しているので、それくらいの歩数を歩いていると思いますが、子どもたちも万歩計をつけてみるなど、目に見える形で自分の運動量を把握できる取組もあってもよいのではないかと思います。1人1台のタブレット端末の中に1日の活動量や、健康管理に関するものを記録していくなど、自分の身体のことや健康管理について習慣化できるとよいと思いました。

今年はオリンピック・パラリンピックが開催され、市内出身のアスリートの活躍もあり、スポーツに対する関心も高まりました。この高まりを止めることなく続けていく必要があると思います。子ども達が身体を動かすことの楽しさを知り、生涯にわたり健康に過ごせるような取組をするにはよい機会だと思っています。

市ではスポーツ振興の基本方針に基づき様々な取組がなされ、誰もがスポーツに親しめる機会が提供されています。先日の少年少女マラソン大会では、昨年は中止されましたが、その前よりも多くの子ども達が参加していました。大会前に学校で取り組み、多くの児童が参加し、先生方が応援に来ている姿も見られました。学校での取組について、このような行事の中で成果を発揮できるのは、とても素晴らしいと感じました。こうした形で取組の成果を発揮できるような行事などがあるとよいと思います。

学校での取組を多く挙げてしまいましたが、学校はすでに多くの取組をしなければならない状況です。子ども達の健やかな体の育成は、今後も学校だけではなく、地域や家庭を含めて取り組んでいくことが必要だと思います。行政主催のスポーツイベントをはじめ、もうすでに行われているものもありますが、

先ほど皆さんもおっしゃっていたように青少対など、地域行事の一環として運動を取り入れたものを行うことや、放課後子ども教室やコミュニティ・スクールの取組として身体を動かす活動を行うなど、変化に富んだもので、運動があまり得意ではない子も参加できるような機会を、継続的に提供できればよいと思います。

また同時に、家庭との連携も必要かと思えます。家庭では学習面に気を配りがちですが、学習の継続には適度な運動が必要であるとよく言われています。規則正しい生活、栄養バランスというのは健やかな身体や心の育成には不可欠です。現状と課題、その解決策などを家庭と共有し、家庭での取組を同時に進める必要があると思えます。保護者会などでは学習面での話が多くなりがちですが、家庭の役割が大きいということを積極的に伝えていくことが必要だと思えます。小平には、グリーンロードや玉川上水近くの遊歩道を歩いたり、自転車でサイクリングできたりする環境があります。家族みんなで身体を動かす、そんな習慣ができるとうよいと思えます。

高齢者などでは身体機能の低下に対していろいろな取組が行われますが、子どもに関しては明らかな不調がすぐに現れるわけではありません。今後長い目で見たときに、子ども達が健康で長く生きていけるように社会全体で課題や体力向上に取り組んでいくことが必要だと思えます。

○小林市長

学校の取組ということでお話いただきましたが、子ども達が過ごす大半の時間が学校なので、学校に頼ることが多いと思えます。学校でかなり取り組んでいるという話もありましたし、それを一層進めていくことが大切だと思えます。

お話にあったようにタブレットがあるので、数値化やグラフ化し、見える化をして、ゲーム感覚で取り組むのもよいと思えました。これだけ動いた、歩いたというのが見えてくると、また一歩踏み出せるのではないかと考えております。子ども達が日々どれくらい歩いているのかというのは私も把握できておりませんが、調べられるとおもしろいのかなとも思いました。学校だけでなく、家庭と地域と一緒に取り組んでいくことを課題として出していただいたと思えます。

では古川教育長お願いします。

○古川教育長

小林洋子市長には、教育行政に対する深いご理解とご支援をいただき感謝しております。引き続き、よろしく願いいたします。

事務局からも説明がありましたとおり、平成28年に実施した小平市の教育に関するアンケート調査の結果を受け、平成30年2月に改訂した小平市教育振興基本計画では、健やかな身体の育成の課題解決のために、オリンピック・パラリンピック教育を推進するとともに、教育委員会の主な施策の1つとして楽しみながら運動プログラムの実践、2つとしてこいだいら一斉体力テスト週間の実施、3つとして体力向上や健康教育の研究の推進に加えまして、市長部局との連携による食育の推進に取り組んでまいりました。

その結果、体力テストの体力合計点が、女子・男子ともに小学校及び中学校の全学年において都の平均値以上となり、取組の成果が出ました。子ども達の頑張りが1番ですが、各小・中学校の取組、青少年対策地区委員会や放課後子ども教室など、地域・保護者のご協力、体育協会など各関係団体や市長部局のご支援のお陰だと本当に感謝しております。

さて、新型コロナウイルス感染症の影響により懸念された体力の低下は、体力テストの結果から明らかとなりました。今回の体力テストで注目したのが、体力合計点です。先ほど申し上げた通り、今までは女子・男子ともに小学校及び中学校の全学年において、都の平均値以上でした。しかし、今年度は女子・男子ともに都の平均より低い学年がありました。小学校第6学年と中学校第1学年です。昨年度休校のあった令和2年度の小学校5・6年生です。体育の授業の制限やスポーツ関連の行事の中止はどの地区でも同じなので、それ以外の要因が考えられます。

あくまでも仮説ですが、特別活動が十分にできなかったからではないかと思います。小平市は特別活動がとても盛んです。高学年の子どもたちは、学校行事や様々な場面でリーダーとして活躍しています。コロナ禍では、全校遠足やたてわり班活動など学年をこえての活動は行うことができませんでした。また、委員会活動なども十分にできませんでした。このような活動の減少の影響があったと思います。今後は、学校と一体となって体力の回復と向上に努めてまいります。体育の授業の充実や外遊びの機会の保障とあわせて、特別活動の推進も支援してまいります。また、食育の推進などを通して望ましい生活習慣の定着を働きかけてまいりたいと考えております。

○小林市長

以前にサッカーのコーチから、8歳から10歳の子ども達はゴールデンエイジと言われていて、サッカーに特化した話になりますが、そこでプレイの基本部分を覚えられなかった子どもは、後でいくら教えても覚えられないという話を聞き、その年代に当てはまる子たちでしたので、少しどきっとしました。今後どうなっていくかしっかりと見守らなければとは思いますが、過ぎてしまった時間は取り戻せないで、新たな目標に向かって努力していかなければと思います。

(閉会)

○小林市長

皆様からいろいろなご意見をいただき、ありがとうございました。生涯を通した健やかな身体づくりということを考えますと、子どもの頃からの運動習慣はやはり重要なポイントになってくると思います。

今後2、3年以内に教育委員会の教育振興基本計画、市のスポーツ振興の基本方針及び健康増進プランの改定を行います。これらの計画等におきまして、健やかな身体づくり、また健康づくりなどを位置付けて、引き続き教育委員会と連携して、小平市の教育、スポーツ、健康施策を推進していきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

本日の会議は以上です。

本年度の総合教育会議は以上となります。来年度の総合教育会議も本年度と同様の回数を予定しておりますのでよろしくお願いいたします。それでは本日の会議は以上となります。ありがとうございました。

11時17分 閉会